

北海道

Hokkaido Tourism Organization

観光レポート

2023年
令和5年12月20日発行

冬号



8月の宿泊者数は、コロナ禍前を上回り、過去最高を記録した。

10月の来道者数は2019年同月対比で、コロナ禍前の実績を初めて超えた。

トピックス アドベンチャートラベル・ワールドサミット北海道・日本(ATWS2023)を振り返って

編集コラム 持続可能な観光と「新しいテクノロジー」 ～チャンス之年には、缶を蹴ってみる～

HOKKAIDO LOVE!



北海道の延べ宿泊者数実績

2023年7-9月

○北海道の延べ宿泊者数(全体)は、7月は418万人泊(前年同月比+37.3%、2019年同月比+15.3%)、8月は435万人泊(前年同月比+26.4%、2019年同月比+11.2%)、9月は352万人泊(前年同月比+13.9%、2019年同月比+8.5%)であった。

8月の435万人は、コロナ禍前の2019年同月391万人を超え、過去最高を記録した。

○北海道の日本人延べ宿泊者数は、7月は347万人泊(前年同月比+14.5%、2019年同月比+26.1%)、8月は373万人泊(前年同月比+9.3%、2019年同月比+14.3%)、9月は311万人泊(前年同月比+1.4%、2019年同月比+10.3%)であった。

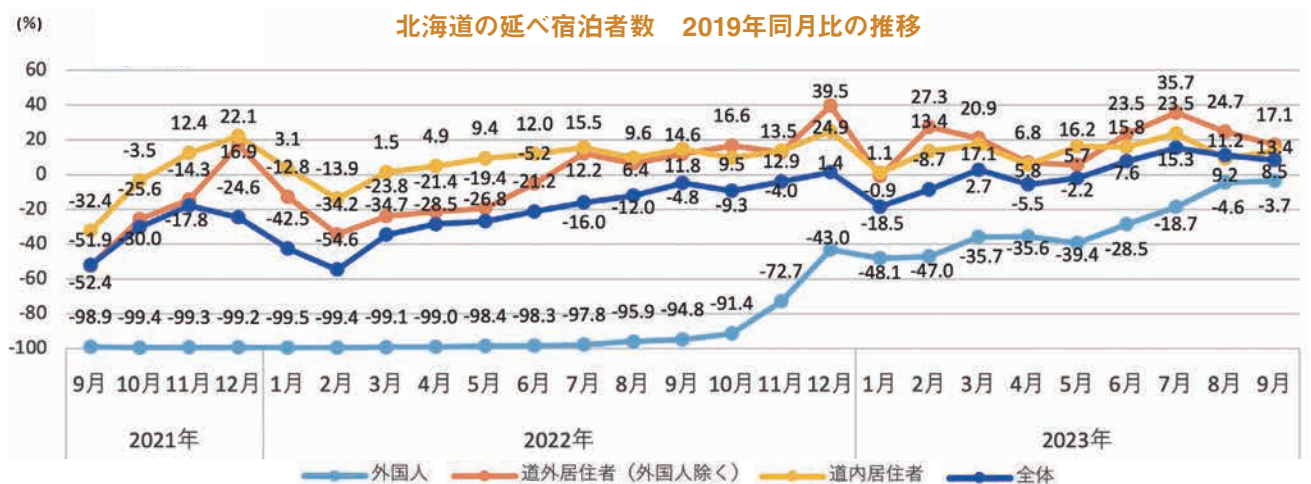
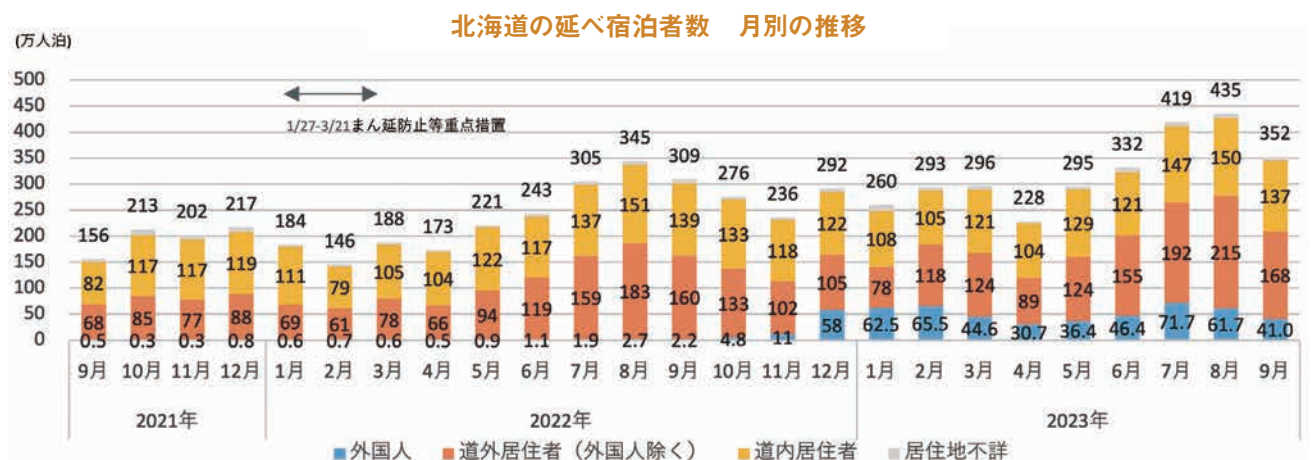
○北海道の外国人延べ宿泊者数は、7月は71万6千人泊(前年同月比+3607.2%、2019年同月比-18.7%)、8月は61万6千人泊(前年同月比+2227.6%、2019年同月比-4.6%)、9月は40万9千人泊(前年同月比+1766.9%、2019年同月比-3.7%)であった。

○日本人に関しては、感染拡大前を上回っており、コロナ禍前の水準に回復した。外国人についても、コロナ禍前の水準には届かないものの、9月は2019年同月比96.3%とコロナ禍前にほぼ匹敵する宿泊者数となり、順調な回復傾向が見られた。

延べ宿泊者数データ(2023年9月第2次速報)

(単位:人泊)

	北海道			全国		
	全体	日本人	外国人	全体	日本人	外国人
2023.9	3,522,200	3,112,420	409,780	50,318,010	40,498,540	9,819,470
2019同月比	+8.5%	+10.3%	-3.7%	+3.2%	0.0%	+18.9%
前年同月比	+13.9%	+1.4%	+1766.9%	+27.9%	+5.1%	+1089.1%



出典:「観光庁宿泊旅行統計調査」をもとに当機構作成
注1:2023年1月~9月は速報値。

来道者輸送実績

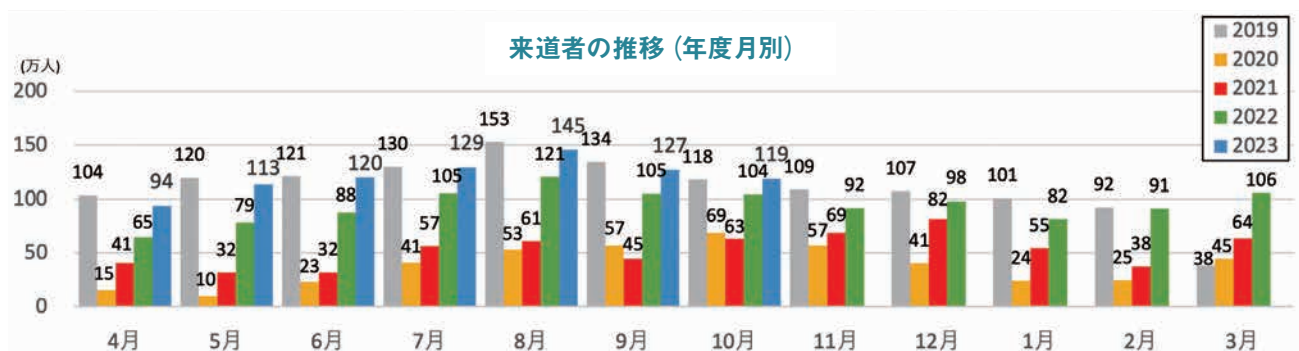
2023年10月

- 2023年10月の来道者数は118万人となり、前年同月比+13.8%であった。
- 10月実績1,188,018人は2019年同月対比で+11,033人とコロナ禍前を初めて超えるとともに、2018年同月の実績1,132,081人も上回った。感染拡大した2020年2月から3年8カ月を経過し、コロナ禍前の来道者数に追いついた。
- 輸送機関別の来道者数は、航空機が104万人で前年同月比+13.2%、JRが6万8千人で前年同月比+26.6%、フェリーが7万人で前年同月比+10.9%となり、全ての輸送機関で前年同月を上回った。
- 発地空港別の来道者数は、関東が67万1千人と全体の64%を占め、次いで関西15万7千人(15%)、名古屋7万7千人(7%)、東北6万6千人(6%)、九州・沖縄3万7千人(4%)となった。
- 着地空港別の来道者数は、新千歳・丘珠が85万2千人と全体の81%を占め、次いで函館6万8千人(6%)、旭川4万2千人(4%)、帯広2万8千人(3%)、釧路2万5千人(2%)、女満別2万1千人(2%)となった。

来道者輸送実績(輸送機関別)

(単位:人)

	総数	航空機	JR	フェリー
2023.10	1,188,018	1,049,380	68,100	70,538
2019同月比	+0.9%	+1.2%	-4.1%	+2.2%
前年同月比	+13.8%	+13.2%	+26.6%	+10.9%



来道者輸送実績(発地空港別)

(単位:人)

	東北	関東	北陸・信越・東海	名古屋	関西	中国・四国	九州・沖縄
2023.10	66,047	671,541	27,648	77,125	157,240	11,901	37,878
2019同月比	-1.4%	-1.1%	+25.9%	-2.9%	+10.8%	-13.0%	+12.1%
前年同月比	+18.2%	+14.6%	+28.4%	+6.6%	+8.0%	+13.7%	+8.6%

来道者輸送実績(着地空港別)

(単位:人)

	新千歳・丘珠	函館	旭川	帯広	釧路	女満別	稚内	紋別	中標津
2023.10	852,413	68,061	42,342	28,498	25,804	21,038	4,062	3,551	3,611
2019同月比	+3.0%	+0.4%	-10.2%	-4.7%	+0.7%	-16.2%	-24.6%	-13.1%	-16.5%
前年同月比	+13.2%	+9.9%	+7.9%	+10.1%	+22.7%	+24.4%	-5.5%	+62.4%	+37.1%

出典:「北海道観光振興機構来道者輸送実績調査」をもとに作成

今号の注目!

北海道の観光統計データサイトがさらに充実!

当機構では、インバウンドの市場別情報、来道者数、来道満足度、経済波及効果など北海道観光に関わる各種データを取得し、統計データサイト(DMP)にて公開しております。今回、①外国人観光客の周遊ルートなどを可視化する機能、②SNSやブログ、掲示板やレビューサイトなどで発信された情報の収集・分析機能、③地域ごとの旅行者の旅行動態の概要がわかるレポートを自動生成する機能が追加され分析機能が強化されました。これまで以上により多角的な分析が可能となりましたので、是非、北海道の観光統計データサイトをご活用ください。

PC版はこちら ⇒ <https://statistics.visit-hokkaido.jp/>

SNS投稿者の居住エリア(例示)



アドベンチャートラベル・ワールドサミット 北海道・日本(ATWS2023)を振り返って



ATWSを北海道へ誘致する活動が実を結び、2023年9月11日から14日まで北海道でATWS2023が開催されました。大会前にはプレサミットアドベンチャー(PSA)、初日の9月11日にはデイ・オブ・アドベンチャー(DOA)を実施。北海道や全国のツアーオペレーターが用意した日本のATツアーを参加者に実際に体験いただき、その様子は大会オフィシャルメディアによるSNS投稿や記事掲載を通じて今も世界に向かって発信が続いています。

主会場の札幌コンベンションセンターでは、ATや観光産業全般に関わるトピックスについて基調講演や分科会が行なわれ、参加者は講演を聞くだけでなく積極的に議論に参加し、会場を出た後も熱心に意見交換する姿がありました。ジャパンラウンジ・北海道ラウンジでもネットワーキングがさかんに行われ、日本への興味の高さが感じられました。

この他にも、ATWS北海道実行委員会は大倉山ジャンプ競技場でのオープニング・セレモニーをはじめ、空手や書道等の文化体験や市内のミニツアーを実施、来日した外国人参加者に北海道や日本の魅力をアピールしました。



◀公式エクスカージョンとしてPSA22コース(道内15、道外7)、DOA31コース(全て道内)を開催しました。フィジカルアクティビティだけでなく文化体験もATです。

▶ BtoB商談会「マーケットプレイス」で熱心にPR活動する参加者たち(左)
▶ 会場内でカジュアルに自由商談をするATWSらしい風景(右)



アジア初開催 ATTA・参加者の評価は

本大会は主催のATTAに「今までで最高のATWS」と評され、参加者アンケートでも全体評価5ポイント中4.5と高く評価されました。また、135名の招待枠には347名のバイヤー・メディアが応募、日本開催への期待感が高かったことが伺えます。「ATとは何か」という初歩から始まったツアー造成は、ツアーオペレーターの努力がPSA・DOAの造成・実施に結実し、PSAが4.5ポイント、DOAが4.0ポイントという評価を得ました。

一方、日本側から見たATWSは、他の国際的な観光イベントとは全く異なりました。参加者やDESTINATIONの間に競争ではなく、連携により価値を高め、同じ目的意識を持ったコミュニティとして、様々な体験、情報、考え方を共有するためにネットワークキングをしている印象がありました。



ATWS2023開催に関わる共同ステートメント



ATWSの会期終了にあたり、ATTAとATWS北海道実行委員会は共同ステートメントを発出しました(全文は実行委員会サイトに掲載)。ATWS2023の成功を称え、互いへの感謝の意を表すとともに、アジア初の現地開催となったこの大会を契機に、これからの北海道・日本におけるATの推進に向けて引き続き協力して取り組んでいくことを宣言しました。

共同ステートメント▶



サミットはスタート地点 これからのAT推進とは

ATWS2023のテーマは『調和 (chōwa, or Harmony)』。個々の利益だけでなく、地域や自然環境などを大切にする観光をという思いがあります。基調講演や分科会では「サステナビリティ」「オーバーツーリズム」「レスポンスブル・トラベラー」といった言葉が繰り返し登場し、より良い世界を目指して観光を、ATを推進するという考えが共有されました。「観光は課題解決の手段」として認知されつつあり、さらに魅力ある商品を目指すためには「サステナブル+魅力」が必要です。

ATへの取組みとは、『四方よし』(「観光客よし」「観光事業者よし」「地域よし」「環境よし」)を理念とし、全てにとって良いことを最大限に、そして負荷を最小限に努めること。ATWS開催は始まりに過ぎません。今回のATWS2023を契機に、北海道や日本全体で価値を共有し、今後も北海道の魅力を発信し続けてまいります。

総参加者数 773名

バイヤー	15.5%
サプライヤー	19.4%
DESTINATION	18.2%
旅行業界の関連事業者	10.5%
イベントパートナー	10.1%
メディア	6.6%
その他	19.7%

開催報告書

■当機構作成
(日本語、公式サイト内)



■ATTA作成
(英語)



※各部で展開している事業の一例をご報告いたします。

プロモーション部(海外)

日本で初の出展!「Snow Bound Expo(ボストン)」で北海道の冬のコンテンツをPR

11月3日から3日間、ボストン・コンベンション&エキシビジョンセンターで開催されたスキーイベントに、日本国内で北海道が初めて出展しました。北海道スキープロモーション協議会のスタッフとともに専用のバックパネルを装飾し、各スキー場のパンフレットや欧米豪向けのスキー&AT等の映像を最大限活用し、20,000人以上の来場者に北海道の「POWDER SNOW」をPRし、誘客に向け好感触を得ることができました。



プロモーション部(海外)

北海道フェスティバルinハロンで観光PRを実施

11月17日から3日間、ベトナム・クアンニン省創立60周年及び日越外交関係樹立50周年を記念した「北海道フェスティバルinハロン」へブース出展し観光PRを実施しました。函館市、北見市、定山溪観光協会、日本旅行北海道とともに共同PRを行い、ブースでは、VR体験やラッキードローなどのイベントも実施し、期間中多くの来場者で賑わい盛況裡に終了しました。



プロモーション部(海外)

2023台北国際旅行博(ITF)に出展

11月3日から4日間、2023台北国際旅行博(ITF)に出展し観光PRを実施しました。コロナ前の2019年には及ばないものの、4日間総来場者34万4475人で盛況に終わることができました。北海道ブースには、道内の観光関連団体14社が共同出展し、オール北海道で北海道の魅力を発信し、会場ではクイズ抽選会や、インフルエンサーによるトークショーなどのイベントも実施され、「北海道にまた行きます!」といった熱いメッセージをたくさん頂きました。



プロモーション部(国内)

世界最大級の旅の祭典『ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西』に出展

約4年ぶりに大阪開催となった『ツーリズムEXPOジャパン2023大阪・関西』は、10月26日から4日間開催され、会場のインテックス大阪に約14.8万人が訪れるなど盛況なイベントとなりました。14の振興局管内から31の市町村、観光協会等が北海道ブースに集まり、BtoB向け商談会、BtoC向けの観光PRをそれぞれ実施。北海道のパワーコンテンツ『食と観光』でアプローチし、試食コーナーではソフトクリーム、ヨーグルト、日本酒、ワイン、焼酎等を提供。ステージイベントの開催、食のプレゼント、参加型ワークショップなども大盛況のうちに無事終了しました。コロナ明けもあり、北海道への関心の高さが感じられた4日間となりました。



マーケティング部

「ケア・ツーリズム調査事業」先進事例視察を実施

本事業は「北海道のケア・ツーリズム」に対するニーズへの打ち手を見出し、観光の高付加価値化の一助とすることを目的としています。10月、健康な人を①もっと健康に(ウェルネス)②ずっと健康に(ヘルス)、非健康な人とその家族に③活力を与える(リハビリ)④癒しを与える(レスパイト)という4つのツーリズムについて、先進事例視察を実施しました(静岡・長野・沖縄・山口)。今回の視察を活かし、北海道におけるケア・ツーリズムコンテンツやそのポテンシャル等について引き続き考察してまいります。



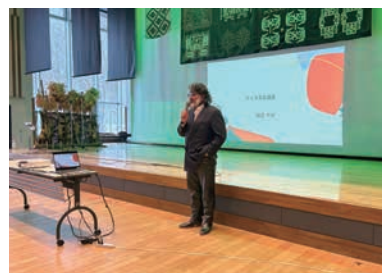
リハビリテーション・ツーリズム〜ドルフィンセラピー(沖縄県)

地域観光部

アイヌ文化研修会を座学とフィールドワークを交えて 2地区(帯広市、札幌市)で開催

当機構では、観光に携わる関係者(通訳案内士、ボランティアガイド等)を対象に、アイヌ文化の正しい知識と理解を深め、観光客に正しく紹介できるよう研修会を毎年開催しています。今年度は座学に加え、帯広市では帯広野草園を実際に歩くツアーや札幌市ではアイヌ文様切り絵体験等のアイヌ文化体験を実施しました。

参加者からはアイヌ文化についてより深く学ぶことができたという好評を得ました。
(11月28日帯広開催、29日札幌開催)



秋辺日出男氏(アイヌ文化分科会副分科会長)による
研修会の様子

地域観光部

親子で「旅育」にチャレンジ!バスツアー開催

親子で一緒に、旅前の計画から旅中での様々な体験を通して、子どもの自主性を促すことを目的として、11月に北海道在住の小学1~4年生とその保護者を対象に、「旅育ワークショップ型バスツアー」を全3回開催し、親子で考えた旅の計画を実践してもらいました。親子ペア合計50組100名の募集に対し1,200組もの応募があり、今年度で3年目となり、改めて「旅育」のニーズの高さがうかがえました。

<参考:3回の各ツアー>

- ・「牧場&Fビレッジ体験いっぱいコース」北海道箱根牧場+北海道ボールパークFビレッジ
- ・「チョコレート工場と小樽体験コース」ロイズカカオ&チョコレートタウン+小樽市内
- ・「動物たちとふれあい体験コース」サケのふるさと千歳水族館+ノーザンホースパーク



地域観光部

北海道DO!MaaSキックオフセミナーを開催

当機構では、国土交通省の令和5年度「交通と観光との共創による北海道MaaS構築人材育成事業」の採択を受け、「北海道MaaSプラットフォーム」を組成するため、その機運と意識を高めることを目的にキックオフセミナーを開催しました。第1部では、九州MaaSに学ぶ一体的な協力体制と支援体制の重要性と題して、九州経済連合会様に基調講演を行っていただき、第2部では、5名のパネリストによる、パネルディスカッションを開催し、北海道MaaSに対する取り組みをスタートさせました。



北海道観光振興機構 事業活動予定

2024年1月~

プロモーション部(国内)

北海道情報交換会(旧ブロック記者発表会)オンライン配信開催!!

1月30日(火)、3月7日(木)に北海道情報交換会を開催します!PR対象時期は3月~5月
テーマは「食と花」です!全国のメディア、旅行会社へ地域の新しい情報を発信してみませんか?Zoomで事前収録をしますので、当日スタンバイは不要です。以下より過去配信分の視聴が可能です。



5月30日配信分



7月12日配信分

地域観光部

令和5年度 観光人材確保・育成事業(従業員研修)

「つくって、売って、受け入れる」みんなで観光1UPセミナーを開催!

- ・2024年1月24日(水) 遠軽町 テーマ「広域観光モデルルートづくり」
- ・2024年2月14日(水) 網走市 テーマ「オホーツク観光プロモーション」

<申込は、こちらから><https://hokkaido-kankou-1upseminar.jp/>



一般財団法人北海道菓子協会

所在地：札幌市中央区南1条西4丁目13 日之出ビル8階

理事長
長沼 昭夫 様



■ 貴協会の設立の経緯と現在、取り組まれている活動について教えてください。

一般財団法人北海道菓子協会は設立から今年で53年目を迎えました。

当協会は昭和43年6月に札幌大通公園を会場に開催された第17回全国菓子大博覧会の運営にあたった北海道実行委員会の会長、古谷辰四郎氏が中心となり、北海道菓子業界の発展、国民の保健や食品衛生の向上に寄与する等の目的で、昭和44年12月に設立総会を経て誕生し、北海道知事から昭和45年5月2日に認可を受けました。初代理事長は古谷辰四郎氏が務め、その後、第2代坂一長氏、第3代小林平八氏、第4代戸澤明氏、第5代古谷嘉章氏、第6代若杉正彦氏、第7代新倉吉晴氏、現在、私で8代目の理事長となります。

財団設立後の昭和46年に北海道菓子会館を建設し、北海道菓子工業組合をはじめとする業界団体の事務受託を行い、研修会等老朽化のため平成30年に解体されるまで長年にわたり活用しました。北海道菓子工業組合が事務局を担うまでは、ほぼ4年に一度開催される全国菓子大博覧会の出品・装飾等の取り纏め窓口となり、北海道実行委員会の中心として役割を果たしました。平成25年に一般財団法人へ移行し、現在は年2回程度の製菓技術講習会を行っている他、平成26年には一般社団法人北海道洋菓子協会等の洋菓子団体の事務受託も開始し、事業の協力、懇親会等業界団体の相互交流も進んでいます。

■ 今後の展望、抱負について教えてください。

コロナ禍で、菓子業界も大打撃を受けました。一番酷い時は、新千歳空港でも売上が95%もダウンした店舗もあると聞いています。非常に大変な時期を持ちこたえ、売上もコロナ禍前の水準に回復してきており、今後も回復基調が続くと考えています。

令和7(2025)年には、旭川で「第28回全国菓子大博覧会・北海道」が開催されることが決定しました。1911年に東京で行われた「帝国菓子飴大品評会」に始まり、お菓子の祭典として約4年に1度、全国各地で開催してきた菓子業界にとって歴史のあるイベントです。前回の第27回は三重県で開催され、第28回は令和7(2025)年5月30日(金)～6月15日(日)17日間の開催で15万人の来場者が見込まれており、北海道がお菓子の国産原料トップシェアであることを広く全国へアピールする絶好の機会だと思っております。菓子業界、関連団体等で北海道実行委員会を組織し、各部門の担当者が大会成功に向け準備を進めております。旭川大会からこれまでの博覧会と内容を変更し、開催規模をコンパクト化、持続可能なイベントとして日本全国どの地域でも菓子博が継続的に開催できるようなイベントを目指しております。同時に、今までの博覧会になかった北海道らしい企画を実施できないか現在、検討しているところです。北海道は、素材、原材料が非常に優れており、全国からも憧れられるような菓子王国だと思っております。旭川で開催される全国菓子大博覧会を契機に、もっと菓子業界を活性化させたいと思っております。そして協会としても更に北海道の観光振興に寄与していきたいと考えております。



持続可能な観光と「新しいテクノロジー」

～チャンス年には、缶を蹴ってみる～

近年、持続可能な観光の需要は増加しており、サーキュラーエコノミーやSDGsといった概念が重要性を増している。ブッキング・ドットコム社の経年調査(2023年版「サステナブル・トラベル」に関する調査)などからも、サステナブルな旅行を求める層が増えていることが明らかになっており、世界の旅行者の80%は「よりサステナブルな旅行をすることは自身にとって重要である」と回答している。

今年度は観光客の動きも活発になっているが、地域ごとに現状を把握して適切な打ち手を講じたい。例えば、人材確保が2019年度比で7割の施設や地域に、観光客が同比100%戻った場合、満足度にどのように影響するかは想像に難くない。今地域として必要なのは、大々的なプロモーションなのか、サービスや観光商品(体験含む)のブラッシュアップなのか。いずれにしても地域内の合意形成、意識の統一を図り、回復する観光需要をとらえたい。



地域内の合意形成を基盤とした持続可能な観光の実現には、人材の確保と育成が欠かせない。観光は総合産業であるが、労働集約型の業態が多く、経験豊富なスタッフやガイドの存在が重要となる。そして、人材不足が課題である場合、テクノロジーを活用することも解決策の一つとなり得る。例えば、AIや翻訳アプリ、各種テクノロジーを導入することで、効率的なサービス提供や情報提供が可能になるかもしれない。

新たなテクノロジーの進歩は、観光に限らず世の中の可能性を広げ続けている。前号のコラムでも触れたNFTに加えて、メタバース、生成AIや翻訳アプリなどのテクノロジーは、様々なシーンで観光客の利便性を向上させる可能性を有する。ただ、テクノロジーの導入に際しては、人間の温かみや質の高いサービスが損なわれないか気をつけたいところ。「臆病」とは異なる「適度な慎重さ」が必要。例えるなら、“缶けり”で、木陰からワクワクしながら様子を窺うように。チャンスを逃したくない。

オススメしたいのは、最近特に話題の生成AIであるChatGPTを社内の会議や休憩時間で試してみること。実際に使ってみることで効果やメリットを実感するだろう。社内の意見交換やアイデアの共有を通じて、より良い解決策や革新的なアプローチを見つけることができるかもしれない。本格的に仕事へ活用するのは、その先の話。

現在、観光振興の領域では、サステナビリティとイノベーションの両面を統合しながら、地域の魅力を最大限に引き出すことが求められている。持続可能な観光は、地域の経済成長や環境保護、文化の保全・発展に貢献するだけでなく、豊かな旅の体験を提供することにもつながる。高い持続可能性を基盤に、未来の世代に引き継がれるような価値を創造することで、ワクワクが増幅し、各種身近な余暇の過ごし方(※)と比べても引けを取らない、むしろ最上の喜びの一つとして「旅行」「観光」が残るのだと考えている。※スマホ、動画配信サービス、ゲーム、テレビ等



突然ネタバラシをするが、この約1,600文字の文章の土台はChatGPTが作成しており、加筆修正は大に行ったものの、作成時間は短縮されている。また、挿入されているイラストもAIで生成している(adobe firefly)。こういう世の中になっていることは驚きであり、また、喜びでもある。ただ、進化のスピードはかつてないほど速い。必死で食らいついても、また速度を上げるテクノロジー。一つひとつ咀嚼する時間はないかもしれないが、まずは恐れずに触れてみる。遊んだり、実際にタスクを任せてみることで小さなイノベーションが生まれるはず。テクノロジーと人間の温かみの融合が観光の未来を形づくるのだと信じている。

やっと巡ってきた観光の回復期。チャンス年。
木陰から飛び出して缶を蹴ってみるのも良さそうだ。

(Y.S)

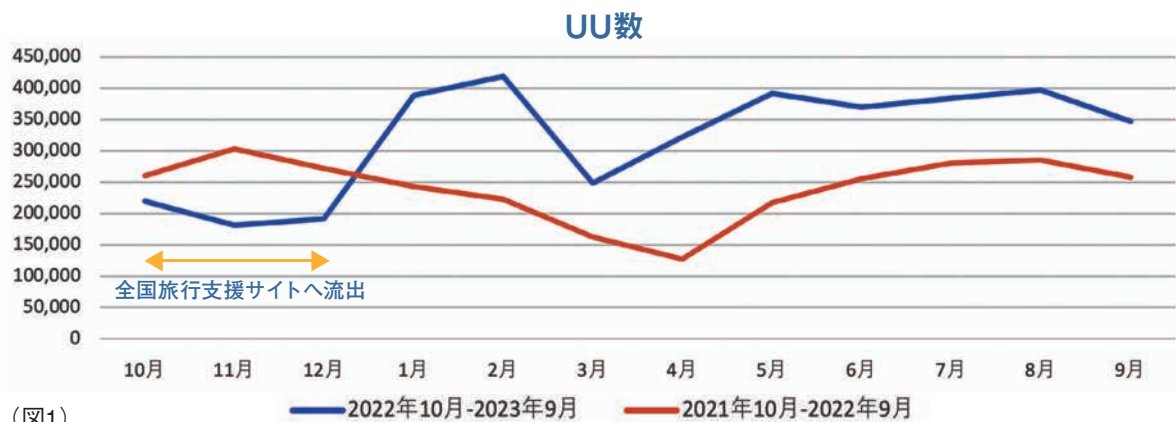
「HOKKAIDO LOVE!」アクセス報告と分析について

▶北海道公式観光サイト「HOKKAIDO LOVE!」では、手軽に観光情報を提供できるよう取り組んでいます。2023年5月から新型コロナウイルスの「5類感染症」への移行や、全国旅行支援「HOKKAIDO LOVE!割」の対策等により、北海道観光は、確実に回復していると実感されている方も多いと思います。今回、HTOサイトのUU(ユニークユーザー)数と来道者数を2022年10月-2023年9月と前年同期比較し、双方の数値の変化と、相関関係について報告します。

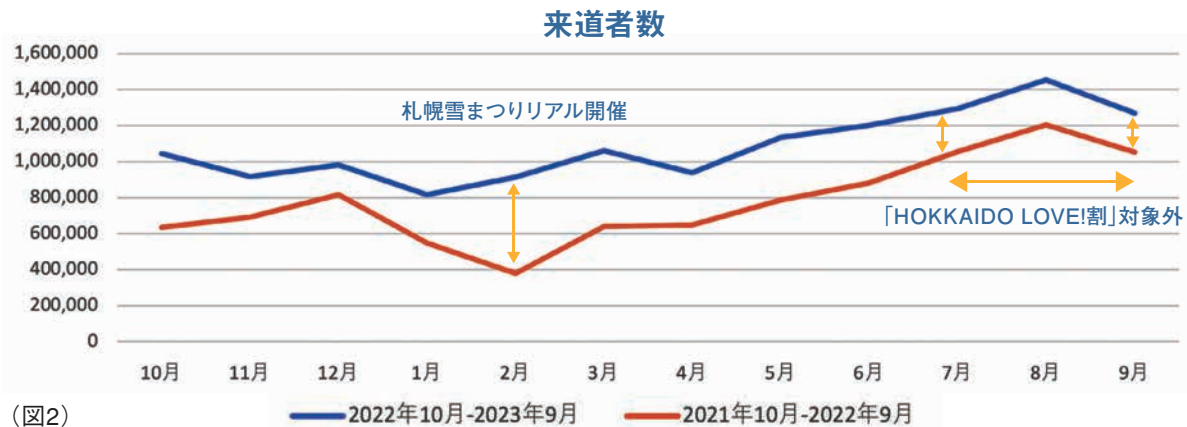
- ・分析指標：①UU(ユニークユーザー)数、②輸送機関別来道者数の2つ
 - ・データ出典：GoogleアナリティクスGA4、HTOが毎月調査している輸送機関別来道者数
 - ・対象期間：2021年10月-2023年9月までの2年間
- ※UU数(ユニークユーザー数)とは、一定期間内にWebサイトを訪れた人数を表す数値です。

1.HOKKAIDO LOVE!サイトのUU(ユニークユーザー)数(図1)

- ・2022年10月-2023年9月：386万UU数で、前年同期比で34%増となりました。
- ・2022年10月-12月：全国旅行支援サイトに流出し、3ヶ月連続で前年を下回りました。
- ・2023年1月以降：月別で前年を下回った月はなく、対前年比は4月の250%がピークでした。



(図1)



(図2)

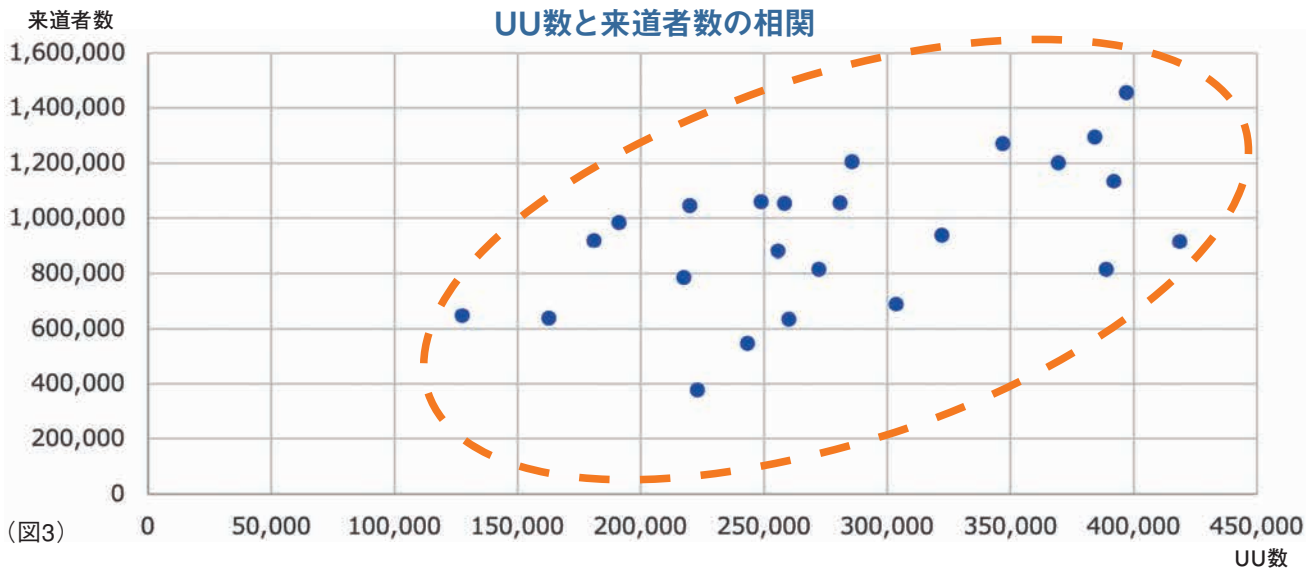
2.輸送機関別来道者数(図2)

- ・2022年10月-2023年9月：1,300万人で、前年同期比で40%増となりました。月別で見ても前年を下回った月はありませんでした。
- ・2023年2月：前年の2.4倍で、月別の伸び率1位となり、「さっぽろ雪まつり」の3年ぶりのリアル開催が要因と考えられます。
- ・2022/12月、2023/7-9月：前年比は上回っているものの前年同期比は120%台と低めで、特に7-9月は「HOKKAIDO LOVE!割」がない月でした。

3.相関関係(図3)

- ・UU数と来道者数に相関性があるかを視覚的に捉えるため、横軸をUU数、縦軸を来道者数として、散布図を作成しました。
- ・図にプロットされた点は右上がりになり、これは、UU数が多いと、来道者数も多い「正の相関」があることを示しています。
- ・相関の強さを示すCORREL関数を用いて求めた相関係数は、0.56となりUU数と来道者数は「かなり相関関係がある」ことがわかりました。

「HOKKAIDO LOVE!」アクセス報告と分析について



相関係数の目安

相関係数	解釈
0.0~0.2	関連性はほとんどない
0.2~0.4	やや関連性がある
0.4~0.7	かなり相関関係がある
0.7~1.0	強い関連性がある

※相関係数の値が1に近いほど、相関関係が強くなります。

キュンちゃんの小部屋



北海道観光振興機構 LINE公式アカウント

北海道の旬な情報はこちらから！
お友達登録が30万人を突破
(※2023年11月現在)
キュンちゃんが道内各地を紹介中!!

北海道の観光案内所



「どさんこ旅サロン」は、「北海道どさんこプラザ」(北海道のアンテナショップ)がある、東京交通会館の3階(札幌市東京事務所内)にございます。(JR有楽町駅下車すぐ)

道内各地のパンフレットを取り揃えているほか、スタッフによる観光・イベント情報の案内や旅行相談も承っています。

住所/東京都千代田区有楽町2丁目10-1
東京交通会館3階
営業時間/11:00~19:00
定休日/土・日・祝、年末年始、施設の全館休業日
問合せ/電話03-6206-3163



JR札幌駅の「北海道さっぽろ食と観光情報館」内にあり、専門のスタッフが日本語以外に、英語、中国語、韓国語で旅行相談に応じ、最新の観光情報を提供致します。また、観光振興機構作成のパンフレットのほか、会員施設のパンフレットが各種陳列されています。

住所/札幌市北区北6条西4丁目JR札幌駅西コンコース北口「北海道さっぽろ食と観光情報館」内
営業時間/8:30~20:00
※大晦日・元旦のみ19:00まで
定休日/年中無休
問合せ/電話011-213-5088

会員募集中!

入会申込みの詳細は、お問い合わせください。



■本レポートに関するお問い合わせ先

公益社団法人北海道観光振興機構
マーケティング部
〒060-0003
札幌市中央区北3条西7丁目1番1 緑苑ビル1階
TEL 011-231-0941 FAX 011-232-5064

NIKI
Hills
Winery

仁木町の丘に輝く、北斗七星
北海道に「北の楽園」と呼ばれる
ワイナリーがある

NIKI Hills Winery

〒048-2401 北海道余市郡仁木町旭台148-1

Tel. 0135-32-3801 / 営業時間 10:00～16:00 (不定休)

<https://www.nikihills.co.jp>



website



世界最大級の国際ワインコンテスト
Decanter World Wine Awards 2020にて
「YUHZOME 2018」が赤ワインで日本初の金賞を受賞

アクセス

- ・札幌から車で約1時間。
- ・後志自動車道余市ICから約15分
- ・JR仁木駅よりタクシーで約5分



@nikihillswinery

